

## 原子力環境材料学研究室

卒業生の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。当研究室では、2025年10月1日付で森永祐加准教授が着任し、教職員は小崎完教授、渡辺直子教授、森永祐加准教授、小野いづみ秘書の4名となりました。一方、2026年4月1日には、新4年生5名と修士1年4名がそれぞれ当研究室に配属となり、現在、博士課程2名（うち1名はドイツに留学中）、修士課程6名、学部生5名の計13名が勉学・研究に励んでいます。

研究室では、2023年に採択された文科省の福島第一原子力発電所廃炉に関する公募研究（英知事業）が2025年度末に終了、新たに渡辺教授が研究代表者の英知事業が2025年度より始まりました。粘土中の放射性核種の拡散挙動に関する研究も科研費を得て、進めています。

文科省の原子力人材育成事業においては、渡辺教授が中心となって制作した、大規模公開オンライン講座（MOOC）「地層処分の科学」を再開講しました（開講期間：2025年10月～2026年1月）。

当研究室は今後も引き続き、廃止措置ならびに放射性廃棄物の処理・処分に関する教育・研究を積極的に展開していく計画です。なお、研究室の活動は、HPにおいても公開中です（<https://nucl-mater.hokkaido.university/>）。皆様、ご来札の際は研究室にお立ち寄り下さい。教職員・学生一同、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。